

29 平成 18 年度千臨技一般検査精度管理 フォトサーベイ 第 1 報

○渡邊一博(国保松戸市立病院) 森修治(JFE 健康保険組合川鉄千葉病院) 三谷智恵子(成田赤十字病院) 西周裕晃(公立長生病院) 久代真也(社会保険船橋中央病院) 古谷公英(順天堂大学浦安病院) 安藤正(君津中央病院)

【目的】平成 18 年度千臨技一般検査精度管理フォトサーベイ集計を報告する。

【方法】フォトサーベイはインターネットを利用して行ない、設問数は 8 問で回答形式は記述式とした。

【結果】(設問 1)正解:尿細管上皮細胞 67/93(72.0%)移行上皮細胞 15/93(16.1%) ウィルス感染細胞 3/93(3.2%) その他 8/93(8.8%)

無染色では、細胞質は灰白色で薄く、リポフスチン顆粒が見られ、S 染色では円柱に付着している点などから尿細管上皮細胞と判定した。

(設問 2)正解:細胞質内封入体細胞 67/93(72.0%)大食細胞(マクロファージを含む)18/93(19.4%)核内封入体細胞 3/93(3.2%) その他 5/93(5.4%)細胞質内に封入体を認めることから細胞質内封入体細胞と判定した。

(設問 3)正解:扁平上皮細胞 85/93(91.4%)トリコモナス原虫 3/93(3.2%) その他 5/93(5.4%)無染色では細胞の形は、円形から類円形で、細胞質辺縁構造は丸みを帯び表面構造は均質状で、灰白色調を示す。および S 染色の染色性より扁平上皮細胞と判定した。

(設問 4)正解:異型細胞(腺癌細胞)73/93(78.5%)円柱上皮細胞 10/93(10.8%)白血球 5/93(5.4%)その他 5/93(5.4%)

無染色にみられる放射状配列を示す細胞集塊は灰白色調で、N/C 比が高く、核小体の肥大がみられる。S 染色においても細胞集塊の一部に放射状配列を示し、個々の細胞は N/C 比大、核の大小不同、クロマチンの増量、核小体の肥大を認めることから異型細胞と判定した。 連絡先 047-363-2171(内 3014)

30 平成 18 年度千臨技一般検査精度管理 フォトサーベイ 第 2 報

○渡邊一博(国保松戸市立病院) 森修治(JFE 健康保険組合川鉄千葉病院) 三谷智恵子(成田赤十字病院) 西周裕晃(公立長生病院) 久代真也(社会保険船橋中央病院) 古谷公英(順天堂大学浦安病院) 安藤正(君津中央病院)

(設問 5)正解:リン酸カルシウム結晶 86/93(92.5%)扁平上皮細胞 2/93(2.2%) その他 5/93(5.4%)尿 pH と板状で薄い氷膜の様に見える結晶からリン酸カルシウム結晶と推測し、溶解試験により判定した。

(設問 6)正解:赤血球円柱、上皮円柱 48/93(51.6%)赤血球円柱 19/93(20.4%) 上皮円柱 6/93(6.5%)赤血球円柱、白血球円柱 6/93(6.5%) その他 14/93(15.2%)

円柱内に赤血球が 3 個以上、尿細管上皮細胞が 3 個以上封入されているので赤血球円柱、上皮円柱の混合円柱と判定した。

(設問 7)正解:回虫 86/91(94.5%)アニサキス 4/91(4.4%) その他 1/91(1.1%)20cm 程の虫体であり頭端の口唇、針状の交接刺から回虫と判定した。

(設問 8)正解:1.A:単球と B:リンパ球 81/90(90%)A:好中球と B:リンパ球 4/90(4.4%) その他 5/90(5.4%)

A の細胞質はサムソン液に濃く染まり、核は偏在していることより単球と判定した。B は小型で円形の核を有し、細胞質は狭く核周囲にリング状にみられることからリンパ球と判定した。

【まとめ】今回いくつかの設問で不適切な回答表現がみられた、尿沈渣 2000 や髄液検査 2002 に沿った表現で回答されることを望む。フォトサーベイの結果をこれからの研修会、フォトサーベイ等に反映させて行きたい。

連絡先 047-363-2171(内 3014)